



令和7年度 地域部活動推進事業に係る実証事業報告会

蕨市における 部活動地域移行・地域連携の取組

蕨市教育委員会



1. 蕨市の概要

「コンパクトシティ」の特性を活かした展開

■ 日本一面積が小さい市

(5.11km²)

人口密度は全国の市で最も高い。

総人口77,216人(2026年2月1日現在)

■ 学校間の距離が非常に近い

市内の端から端まで最長約4km強。

中学校3校がコンパクトに立地。

■ 「市内1クラブ」の実現可能性

生徒が自転車で移動可能な距離感。

3中学校の生徒が参加する地域クラブ活動でも、市内で共通の1クラブとして実施が可能。



2. 市内中学校の部活動加入状況

高い部活動加入率と多様な活動種目 全3中学校（第一中・第二中・東中）

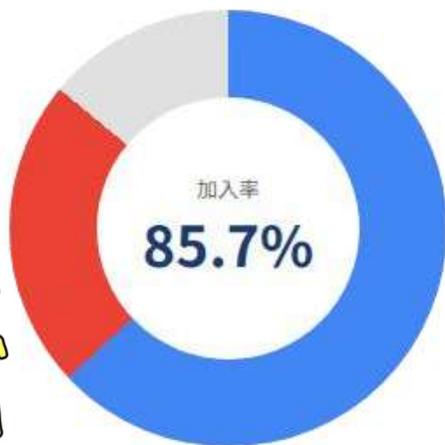
加入状況データ

生徒総数1,451名

🏀 運動部913名

🎵 文化部330名

合計 1,243名



(※3校とも任意加入制)



市内中学校の設置部活動

※○数字は設置校数（男・女・共通含む）

運動部 (13種目)

- | | | |
|-----------|-------------|-----------|
| ■ 陸上競技① | ■ 野球① | ■ バレーボール③ |
| ■ サッカー③ | ■ バスケットボール③ | ■ ソフトボール③ |
| ■ ソフトテニス② | ■ 卓球③ | ■ 剣道② |
| ■ 柔道① | ■ 水泳① | ■ バドミントン② |
| ■ 硬式テニス① | | |

文化部 (7種目)

- | | | |
|---------|-----------|---------|
| ■ 吹奏楽② | ■ 音楽（合唱）① | ■ 美術① |
| ■ 文芸① | ■ 家庭科① | ■ パソコン② |
| ■ 文化教養② | | |

この多様な選択肢を持続可能な形で地域へ移行することが目標です。

3. 今年度の実証事業（概要）

民間連携による4種目の実施

JR東日本スポーツ株式会社へ委託し、以下の4種目で実証事業を実施しました。



陸上・水泳

場所：中学校校庭・公共スポーツセンター・民間施設等
内容：専門インストラクターによる技術指導。
個人の記録向上・泳法習得を目指す。



剣道・柔道

場所：中学校施設（体育館・武道場）
内容：連盟指導員と顧問の連携。
ICTを活用した動画配信による保護者連携。

実証事業の成果と課題

👍 成果・手応え

- **専門的指導と生徒の成長** 身体の使い方など専門的な技術指導により、生徒の技能向上が見られた。
- **新たな環境での「やりがい」** 「教える楽しさ」を再確認（指導者）や、ICT活用（動画配信）による保護者への活動状況の共有が進んだ。
- **学校部活動への波及効果** 平日の顧問（兼職兼業で休日に指導）が他の指導者から指導法を学ぶ機会となり、平日の学校部活動への還元につながった。

⚠️ 浮き彫りになった課題

- **指導者の負担と持続可能性** 休日稼働への負担感や、中体連行事と地域クラブ活動の日程調整が困難。
- **生徒指導と規律の確保** 挨拶や態度など、学校活動との「意識の切り替え」や指導の難しさへの戸惑い。
- **運営実務と連携体制** 参加者数確保、鍵の管理、顧問との連絡フローなど、実務面の課題が残る。

持続可能な体制構築に向けた「人材発掘」

次年度以降の可能な限り早期の本格展開を見据え、市内に潜在する指導人材を掘り起こすため、大規模なアンケート調査を実施しました。

調査の目的

1. 潜在的な指導意欲のある人材の可視化
2. 参加障壁（ボトルネック）の特定
3. 謝礼・保険・研修等の制度設計への反映



4. 地域指導者アンケート（対象設定）

「安心・安全」を最優先した対象設定

中学生を指導する適性・責任・リスク管理（わいせつ・ハラスメント防止等）の観点から、**一般公募（在住・在勤全体）は行わず、身元の確かな層に限定して実施しました。**

調査対象（限定）

- 学校教職員（兼職兼業希望）
- 児童生徒の保護者
- 蕨市役所職員
- スポーツ・文化協会 加盟団体

丁寧な周知活動

以下の関係者に対し、趣旨を丁寧に説明し、アンケートへの積極的な協力を依頼しました。

- 校長会（教職員・保護者へ）
- 市長（市職員へ）
- スポーツ協会・文化協会 常任理事会（加盟団体へ）



4. 地域指導者アンケート（主な質問内容）

指導者としての「適性」と「条件」を深掘りする設問設計

Googleフォームを活用し、以下の4つの観点から全21問の実態調査を実施しました。



📁 1. 基本属性・経験スキル

- 回答者の立場（教職員 / 保護者 / 一般・団体）
- 経験種目・分野（スポーツ / 文化芸術）
- 指導経験年数（3年以上 / 3年未満 / 選手経験のみ）
- 保有資格（公認指導者資格 / 審判資格 / 教員免許等）

👉 2. 参加意向・希望する役割

- 参加意向（ぜひ参加したい / 条件が合えば / 難しい）
- 担える役割（複数回答可）
 - 技術指導（メイン / アシスタント）
 - 大会引率・審判
 - 見守り・安全管理
 - 運営・事務

📁 3. 活動条件・環境

- 活動可能頻度（週1回 / 月1~2回 / 土日のみ等）
- 希望する謝礼額（無償 / 実費 / 3,000円～ / 5,000円以上）
- 交通費の要否
- 重視する条件（責任の所在 / シフトの柔軟性 / 複数名体制等）

⚠️ 4. 不安・懸念事項

- 参加にあたっての不安
 - 最新の指導法やルールへの不安
 - 事故・怪我発生時の責任問題
 - 生徒・保護者とのトラブル対応
- 参加が難しい理由（仕事・家庭の多忙 / 自信がない等）

回答状況（令和8年2月5日現在）

※令和8年1月から調査開始。現在も継続中。

総回答数

1,257件



回答者の属性（推計内訳）

保護者	708件 (56%)
その他協会等	328件 (26%)
教職員	221件 (18%)

成果のポイント

- 目標を大きく上回る1,257件の回答を獲得。
- 特に保護者層からの関心が非常に高く、過半数を占める。
- 教職員・関係団体からも十分な回答数が得られ、信頼性の高いデータを収集できた。

5. アンケート分析結果②（参加意向）

地域クラブ活動への参加意向

(n=1,257 / 令和8年2月5日現在)



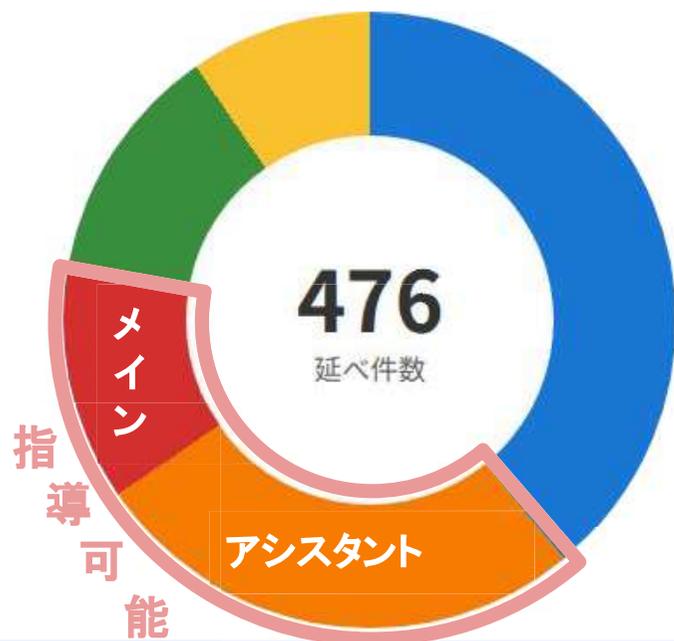
合計 376人 (30%) の方から、
前向きな回答が得られました。

※この300名超の潜在的人材プールは、蕨市の部活動改革における最大の財産です。



参加意向者の「希望する役割」内訳

※複数回答可 (参加意向者376人による延べ回答数476件)



見守り・安全管理 186人 (39.1%)

指導補助 (アシスタント) 125人 (26.3%)

技術指導 (メインコーチ) 60人 (12.6%)

運営・事務 59人 (12.4%)

大会引率・審判 46人 (9.7%)

指導可能
約4割 (185人)

分析

「見守り」などの補助的な役割を希望する方が約6割を占める一方、「技術指導 (メインコーチ)」と「指導補助 (アシスタント)」を合わせた指導可能な方が約4割 (185名) 存在します。

「少数のメイン指導者」を「多数のサポーター」が支えるチーム制の構築が、持続可能な運営の鍵となります。

5. アンケート分析結果④（潜在的人材・スポーツ）

地域の「宝」を発掘：スポーツ分野

現在の参加意向にかかわらず、「活動経験がある（指導経験問わず）」と回答した方の人数を集計しました。（※複数回答あり）

種目	経験者数
野球・ソフト	125人
テニス(ソフト・硬式)	124人
バスケットボール	101人
バレーボール	89人
サッカー	83人

種目	経験者数
水泳	75人
バドミントン	60人
剣道・柔道	58人
陸上競技	50人
卓球	44人

※ダンス、スキー、ゴルフ等の回答もあり、多様な種目の経験者が確認されました。

5. アンケート分析結果⑤（潜在的人材・文化芸術）

地域の「宝」を発掘：文化・芸術分野

スポーツだけでなく、文化芸術分野においても、活動経験を持つ人材が多数存在します。

分野	経験者数
吹奏楽	87人
合唱	51人
ピアノ	7人
絵画（美術）	7人
調理	7人
プログラミング	6人
語学（英・西・中）	6人

その他の貴重なスキル（抜粋）

裁縫 クラシックバレエ バトントワーリング
茶道・いけばな 日本舞踊 エレクトーン 応援団
製菓製パン ソルフェージュ タヒチアンダンス
チアリーディング ドラム フラメンコ ラテアート
囲碁 演劇 技術科 自然科学 書道

これらの「少数だが専門的なスキル」を持つ方々の存在を把握できたことは、今後の文化部活動の展開において大きな成果です。

アンケート実施の成果と意義

1. 「人材はいる」という確信

「指導者がいない」のではなく、「条件を整えば協力できる」人材が地域に多数存在することが可視化されました。

1,257件の回答と、300名超の潜在的協力者は大きな希望です。

2. 多様なニーズへの対応可能性

メジャースポーツだけでなく、マイナー種目や文化芸術分野の経験者も把握できました。

子供たちの多様な興味・関心に応える「新しい部活動」の形を作る土台となります。

今後の地域クラブ活動に必須となる潜在的な協力者はもとより多様な内容の指導人材（少数）も含めた実態把握ができたこと自体が、今後に向けての最大の成果です。



次なるステップ：仕組み作りと周知

📌 「人材バンク」の構築

アンケートで発掘した人材をデータベース化し、持続可能な地域クラブにおける指導を行う仕組みの整備を進めます。
「技術指導（メイン）」と「見守り（サブ）」を組み合わせたチーム作りを推進します。



📌 効果的な周知・広報

ターゲット：中学生、新小学5・6年生とその保護者、教職員、地域人材など
今後の地域クラブの活動内容や方向性、指導者の募集状況（人材バンク）について、様々な方法を活用し、効果的な周知を推進します。

持続可能な地域クラブの実現に向けて

令和8年度へ向けて、取組を一層推進します。

- 部活動の一部地域クラブ化を継続・拡大します。
- 蕨市の実態（コンパクトシティ）に即した、持続可能な体制を整備します。
- 他自治体の好事例も参考にしながら、着実に歩みを進めてまいります。

地域全体で子どもたちを育む
新たなスポーツ・文化環境を創造します。

